

授業科目	老年看護学	講師名	医師・看護師・専任教員		
開講時期	1年次 前期	単位数	8単位	時間数	285時間

【目的】

老年期にある対象の特徴を理解し、あらゆる健康レベルや状況下にある老年者に対して、個別的な看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。

【構成】

老年看護学	8単位	285時間
老年看護学概論	1単位	30時間
老年看護学方法論Ⅰ	1単位	30時間
老年看護学方法論Ⅱ	1単位	30時間
老年の疾病・障害	1単位	15時間
老年看護学実習	4単位	180時間
老年看護学実習Ⅰ	2単位	90時間
老年看護学実習Ⅱ	2単位	90時間

授業科目	老年看護学概論	講師名	五味明子		所属	看護専門学校
開講時期	1年次 後期	単位数	1単位	時間数	30時間	
<p>【学習目的】 老年期の意味や加齢による身体的、心理・社会的変化を理解し、老年者のライフスタイルやニーズ、超高齢社会の保健、医療、福祉に対する理解を深め、老年看護の目標・役割について学ぶ。</p> <p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護学の概要を理解できる。 2. 老年看護の対象を身体的、心理・社会的特徴とその生活背景から理解できる。 3. 超高齢社会の保健、医療、福祉と倫理的課題が理解できる。 4. 老年期の発達課題を知り、老年看護の目的と役割が理解できる。 <p>【学習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護学の概要 2. 老年期の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 老年期とは 2) 老年期の特徴 3) 老年期の発達課題 4) 老年人口の増加 5) 老年期の健康状態 3. 加齢に伴う心身の変化 <ol style="list-style-type: none"> 1) 老化の捉え方 2) 老化の特徴 3) 身体的機能の変化 4) 心理・精神的機能の変化 5) 社会的機能の変化 4. 老年者の生活 <ol style="list-style-type: none"> 1) 老年者の生きてきた時代背景、生活史 2) 老年者の暮らし向き 5. 老年観と倫理的課題 6. 老年看護の目標と役割 <ol style="list-style-type: none"> 1) 老年看護の目標 2) 老年看護の役割 3) 医療チームにおける協働 7. コミュニケーションの方法 8. 超高齢社会における保健医療福祉 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保険医療福祉制度の変遷 2) 介護保険制度 3) 高齢者の医療制度 <p>【使用テキスト】 北川公子ほか, 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学, 医学書院 国民衛生の動向, 厚生統計協会</p> <p>【評価方法】 ・筆記試験 ・学習課題</p> <p>備考: 講義は、テキストと資料を基に行う。 GW、演習あり。</p>						

授業科目	老年の疾病・障害	講師名	大荷満生		所属	医学部
開講時期	2年次 前期	単位数	1単位	時間数	15時間	

【学習目的】

加齢に伴う身体的および精神的機能の変化が、高齢期の疾病の発症や生活の質（QOL）に及ぼす影響を理解し、適切な看護援助を導く理論と方法を学ぶ。

【学習内容】

1. 高齢者の栄養評価と栄養治療
2. 認知症の病態と治療
3. 高齢者の薬物療法と呼吸器疾患
4. 高齢者の消化器疾患
5. 脂質代謝と動脈硬化
6. 高齢者の循環器疾患
7. 高齢者総合機能評価（CGA）

【使用テキスト】

講師の資料

【評価方法】

学科試験：（筆記試験）

備考：

授業科目	老年看護学方法論 I	講師名	本間理予・五味明子		所属	看護専門学校
開講時期	2年次 前期	単位数	1単位	時間数	30時間	
<p>【学習目的】 老年期の「健康」について考え、加齢による身体的、心理・社会的変化を理解し、老年者の「生活」に焦点をあてた看護の方法を考え、学ぶ。</p> <p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年者の身体的変化を体験し、老年者が健康な生活を送るために必要な援助を考えることができる。 2. 加齢変化により起こりやすい症状・状況が理解できる。 3. 日常生活援助に必要な技術を学ぶことができる。 <p>【学習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年の健康生活を護るための看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 老年における健康の考え方 2) 老年の保健活動 2. 高齢者模擬体験 3. 加齢変化により起こりやすい症状・状況 <ol style="list-style-type: none"> 1) 脱水 2) 尿失禁 3) 誤嚥（誤嚥性肺炎） 4) 転倒・骨折 4. 老年者の日常生活援助の方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 日常生活を整える援助 2) 老年者との関わり方（高齢者倫理） 5. 日常生活援助に必要な技術 <ol style="list-style-type: none"> ①口腔ケア・義歯の取扱い ②杖歩行 ③車椅子への移乗 ④尿パット・オムツ交換 <p>【使用テキスト】 北川公子ほか, 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学, 医学書院</p> <p>【評価方法】 ・筆記試験 ・学習課題</p>						
<p>備考： 講義は、テキストと資料を基に行う。 GW、体験学習、演習あり。</p>						

授業科目	老年看護学方法論Ⅱ	講師名	病院看護師（複数） ／五味明子		所属	杏林大学病院 ／看護専門学校
開講時期	2年次 後期	単位数	1単位	時間数	30時間	

【学習目的】

老年の特徴を踏まえ、疾病・障害を持つ老年に対する状況・症状別看護の視点と予防を重視した看護の基本を学ぶ。

【学習目標】

1. 疾病・障害を持つ老年の特徴について理解できる。
2. 老年患者の状況別、症状別看護の視点と看護の基本を理解できる。
3. 事例を通して、老年期にある対象の看護過程を展開できる。

【学習内容】

1. 病院・施設における看護
 - 1) 老年患者の疾病をめぐる特徴
 - 2) 病院における看護（治療を受ける老年患者、退院する老年患者、通院する老年患者、それぞれに対する看護）
 - 3)
2. 終末期における看護
 - 1) 終末期とは
 - 2) 老年者と死
 - 3) 終末期の看護の方法
 - 4) 臨死時の看護
 - 5) 家族への看護
3. 老年患者に特有の看護問題とその看護
 - 1) 褥瘡
 - 2) 脱水
 - 3) 尿失禁
 - 4) 誤嚥
4. 身体可動性の障害を持つ老年者の看護
 - 1) アセスメントと看護の視点
 - 2) 寝たきり防止と自立への援助
5. 認知症患者の看護
 - 1) 認知症とは
 - 2) 共通する臨床的症状
 - 3) 認知症患者の看護の基本
 - 4) 認知症のケア施設
6. 老年期にある対象のみかた
 - 1) 老年患者の特徴
 - 2) 生活機能のアセスメント
 - 3) 健康状態に対するアセスメントの視点と留意点
 - 4) 老年者自身から情報を得る際の留意点
7. 看護過程の展開
 - ・脳梗塞患者の事例を用いた看護過程の展開

【使用テキスト】

北川公子ほか、 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学、 医学書院

【評価方法】

- ・筆記試験
- ・学習課題

備考： 講義は、テキストと資料を基に行う。 GW、演習あり。

科目	老年看護学実習Ⅰ	担当者	施設指導者 ／ 実習担当教員		所属	杏林大学病院 ／看護専門学校
実習時期	2年次1月～ 3年次7月	単位数	2単位	時間数	90時間	
<p>【意義】 各施設の実習を通して地域で生活する高齢者の特徴を理解し、健康状態に合わせた生活状況と生活支援、看護職の役割を理解する。また、高齢者と接する中で、高齢者の置かれている状況に関心を持って誠実に向き合い、相手を尊重するという意味を考え深めていく。</p> <p>【目標】 地域で生活する高齢者の特徴・個人差を理解し、今までの知識を活用しながら、加齢による身体の諸機能の低下や恒常性の低下から、疾病による健康障害を併せ持つ高齢者の理解を深めることができる。また、高齢者を尊重したコミュニケーションを図りながら、現在持っている能力や知恵、生活史や価値観、健康観を知り、健康状態に合わせた生活状況と生活支援の実際を学ぶことができる。さらに、地域における各施設の役割から看護師の役割、他職種との連携を学ぶことができる。</p> <p>【学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3施設に於いて実習を行う。 福祉会館（2日間）、介護老人福祉施設（3日間）、介護老人保健施設（4日間） ・ 実習指導者と共に、援助の一部を見学、実践する。 ・ 実習終了時に、終了まとめ（学内学習）を行う。 <p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 評価は「老年看護学実習Ⅰ」の規定時間の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。 2. 評価は「評価規定」に基づき行う。 <p>* 詳細は実習要項参照。</p>						
<p>備考： 「老年看護学実習Ⅰ」の受講には、実習開始前に、以下の科目を履修していることが必要である。 基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ</p>						

科目	老年看護学実習Ⅱ	担当者	施設指導者 ／ 実習担当教員		所属	杏林大学病院 ／看護専門学校
実習時期	2年次1月～ 3年次11月	単位数	2単位	時間数	90時間	

【意義】

老年看護学実習Ⅱでは、入院治療を必要とする高齢者を対象とする。疾患や入院生活によって低下した機能を回復・維持し、できるだけ入院前に近い生活へと戻れるよう支援することが看護の役割である。

高齢者は長きにわたる生活史の中で培われた多様な価値観や信条に加えて、進行速度の異なる加齢変化、慢性疾患や障害を併せ持ち、生活や健康に対するニーズの個別性が高い。その為、老年看護の対象は、疾病を持ち障害と共に生きる者、人生の終末を迎える者など様々な健康レベルにある高齢者である。

高齢者の生活史、価値観、健康状態等を理解し、生活に焦点を当て「人生の最終ステージ」をその人らしく過ごせるよう、高齢者を支える家族も含めた看護を学ぶ。

【目標】

老年期の特徴や高齢者の生活史、価値観、健康状態等を併せて高齢者を理解し、高齢者の生活に焦点を当て、健康を維持・回復するための看護を実践できる。あるいは、人生の終末を迎える高齢者の看護を考えることができる。その中で、長い人生を経た高齢者の個別性と老年看護について理解できる。

【学習内容】

- ・老年期にある対象を受け持ち、目標に沿った看護を行う。
- ・原則的には1日1時間程度のカンファレンスを行う。
- ・実習終了時に、終了まとめ（学内学習）を行う。

【評価方法】

1. 評価は「老年看護学実習Ⅱ」の規定時間の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。
2. 評価は「評価規定」に基づき行う。

* 詳細は実習要項参照。

備考：

「老年看護学実習Ⅱ」の受講には、実習開始前に、以下の科目を履修していることが必要である。

基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ